

はにい「インクルーシブな考え方で教育を実践(上)～子どもと共に進める学び～」

令和8年3月19日

●子どもと共につくる授業・行事

グループ学習の時間では、教員はあくまでファシリテーターとして、子どもたちが主体的に活動する姿をサポートする。子どもたち自身で調べたいことを決め、調べ方もまとめる方法も選択する。教員は良き相談相手。教員も子どもたちと目線を合わせながら、様々な相談に応じる。「ここをみてもいいんじゃない?」「〇〇さんも調べていたから聞いてみたら?」そんな子どもたちの関係もつないでいく。子どもたちの声を聞き、子どもたちと対話しながら、授業が進んでいった。教室の壁には、子どもと共に計画した行事一覧があり、その記録が記されていた。「卒業まで、こんなことしたいね」と子どもの意見を聞きながら作っていくクラスや学年の行事。たくさんの行事を子どもたちと考えた様子が目に浮かぶ。教員は、自分の役割を柔軟に変えながら、子どもたちと共に作っていく、そんなインクルーシブな学校づくりの実践が、教員の姿や教室の様子等、随所で見られた。



【子どもの相談に応じている姿】



【子どもと共につくる行事の教室掲示】

●困りごとは子どもと相談しながら解決へ

ある学校では『ケース会議』という名称は使わない。子どもと一緒に話し合う『作戦会議』というネーミング。『作戦会議』では、教員も保護者も子どもも、みんなでいっしょに対話をすることを大事にしている。子どもの困ったことや悩んでいることに対してみんなで聞き、「じゃあどうする?」「こんなことならできるよ」「こんな時どうしたい?」等、子ども自



【子どもと共につくれた目標にむけて】

身の思いを聞きながら、解決方法を相談する。その際、子ども自身で目標を設定することもある。子どものことを本人抜きで決めると、結果的にその子の思いとずれてしまうことも多い。「『作戦会議』っていうと、楽しそうに参加してくれます。ネーミングの工夫も大事ですよ。」あるコーディネーターはそんな風に言って笑った。

また、この学校では子どもたちと相談し、試行錯誤しながら環境をつくっている。保護者から「うちの子、椅子を斜めに傾けてしまうんです。倒れそうで心配で…。」という声を聞き、子ども本人と相談。椅子の座面をぐらぐらさせる仕組みにし、本人に「この椅子を使ってみる？」と相談。数時間使ってみてさらに相談。「どうだった？」「すごい集中できた！」



「じゃあ、普段から使ってみたい？」「うん、教室でも使いたい！」「じゃあ担任の先生にも相談してみよう。」子どもや保護者や担任とのやり取りを丁寧に行い、一人ひとりの気持ちに寄り添い、相談しながら進めていく。子どもと一緒に模索するプロセスを大事にしながら、インクルーシブな学校づくりが実践されていた。

【左大：子どもと相談して作った座面がぐらぐらする椅子】

【右小：座面の裏にはビー玉がついている】

かながわ元気な学校づくり通信『はにい』とは、
学校が元気になるように…

先生の仕事を受けとる

学校に携わる大人たちがしていることを受けとる

そして、もちろん子どもたちの育ちを受けとる

そんな、コミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス：inochi4027@pref.kanagawa.lg.jp